

## 日本は瑞穂国か？

本州は、今まさに梅雨の季節。私もかつて東京で生活していたことがありますが、梅雨の季節はいつもジメジメしていて、憂鬱でした。また、各地で大雨による災害が発生しており、日本に梅雨というものが無ければと感じている方も多いと思います。しかし、よく考えてみますと、仮に梅雨がないとなると、ダムなどの水瓶が空になったり、農作物にも悪影響が出てきますので、迷惑がってばかりいる訳にはいきません。

もともと日本は、モンスーンアジアの東端に位置しており、年平均1700ミリもの雨が降っています。これは世界平均（900ミリ弱）の約2倍に相当しますから、大変な多雨地帯に位置しているといえます。

そして、我が国は、この豊かな水を利用して水田を初めとする農業を営んできました。「瑞穂国（みずほのくに）」と古来より呼ばれてきた意味もまた、そこにあります。

このように、我が国は、豊かな水に恵まれているにもかかわらず、世界でも有数の水輸入国という現実、皮肉としかいいようがありません。

水の輸入といえば、ミネラルウォーターを思い浮かべる方も多いと思います。しかし、ミネラルウォーターの輸入は約33万キロリットルで国内消費の約5分の1に過ぎません。

実は、こうした水の輸入量よりも遙かに多い水を、私たちは日常生活の中で、殆ど意識することなく輸入しているということを知っておく必要があります。

アメリカの中西部は、アメリカでも有数の穀倉地帯ですが、この地帯は雨量が少ないために地下水を使って大規模な農業が行われています。

かつて、私は飛行機からその様子を目にしたことがありますが、地下水の取水口を中心にした円形模様の圃場の連なりに、アメリカの大規模かつ機械化された農業の姿を見る思いがしたものです。同時に、30年ほど前から、地下水の

減少が問題となっており、水の確保が出来ず放置され、砂漠化しつつある農地は少なくありません。

このように、農業には大量の水を必要としておりますので、農産物を消費するということは、水を消費するということでもあります。また、家畜の飼料も大量の水を必要としておりますので、水がなければ酪農もなりたちません。

我が国は、飽食の国といわれながら食糧の自給率は極めて低く、歪な姿をしていますが、外国から食料を大量に輸入しているということは、同時に、その国の水資源を大量に消費しているということに外なりません。

この目に見えない水のことを、ヴァーチャル・ウォーターとも間接水ともいいますが、我が国は、この間接水を年間約640億キロリットル輸入しているといわれており、これは国内の農業用水の量に匹敵するのです。

我が国は、外国から、石油だけでなく膨大な水をも輸入しながら豊かな生活を維持しているのだという、その危うさにもっと敏感であるべきでしょう。

(塾頭 吉田 洋一)